

## 京響の歩み

京都市交響楽団は、日本で初めての公共団体に所属する京響楽団です。

全国から応募した約100名の志願者の中から、数次にわたるテストを経て、48名が正規楽員として採用され、本年5月12日に編成式を挙げました。

以来、日曜を除いた連日5～6時間の練習を続け、約1ヶ月の後は第1回演奏会を開いて非常に好評を博し、その将来に大きな期待を持たれました。

常任指揮者カール・チェリウス氏は、オーケストラ・トレーナーとして特異の才能を持ち、その練習の厳格なことは広く知られています。特に許されて京響の練習を見学したある音楽評論家は「これまでの日本のオーケストラには想像も出来ないことだ」と言って驚きました。

京響はこうした練習をつむ一方、7月、8月にわたり京都市内を巡回して9回のプログラム・コンサートを開き、7月28日には第2回演奏会を、そして9月15日には第3回演奏会を開きました。

高京都市長も「京響は市政のアクセサリーではない。京都市の新しい文化財として育て上げなければならない」と言い、指揮者も楽員もその方向を目指して進んでいます。



## カール・チェリウス

- 1908年 ドイツ国コブレンツ市に生る  
コブレンツ音楽学校卒業  
ケルン国立音楽大学卒業（指揮法をアーベント  
ロート教授に学ぶ）
- 1933年 コブレンツ市立歌劇場専属指揮者  
ブレスラウ・オペラハウス専属指揮者  
ガブロンツ市立歌劇場指揮者  
ハイデルベルグ市立歌劇場指揮者
- 1946年 パリー・オペラ・コミック・コンスタンツ市立  
歌劇場客演指揮者
- 1953年 グラーツ・オペラハウス指揮者
- 1954年 マンハイム・ナショナル歌劇場専任指揮者
- 1955年 10月京都市立音楽短期大学講師に着任、現在に  
至る



## 山田 宗 二 郎

昭和2年11月京都に生れる。本年29才

兎東龍夫東京芸大教授およびシユタフオンハーゲン氏に師事

昭和22年開催の第1回京都音楽コンクールに入賞。昭和29年10月、同30年11月リサイタルを開きその優れた技術と音楽性を高く評価された。

NHK京都放送局絃楽団および同サロン・オーケストラの首席奏者として知られて来たが、京響編成と同時に入団し、直にコンサート・マスターの重責を担い常任指揮者を扶けて名演奏長の誉が高い。

— PROGRAM —

Classic Music

G. F. Handel ..... THE FAITHFUL SHEPHERD

忠実なる羊飼  
—Suite for Orchestra—  
Introduction and Fugue  
Adagio  
Bouree  
Pastorale  
Finale

F. Shubert ..... SYMPHONY No.3 D-MAJOR

交響曲第三番ニ長調  
Adagio maestoso, Allegro con brio  
Allegretto  
Menuett vivace  
Presto vivace

— 休 憩 —

Popular Music

J. E. F. Massenet ..... OVERTURE TO "PHÈDRE"

歌劇「フェードル」序曲

R. Schumann ..... "ZIGEUNERLEBEN"

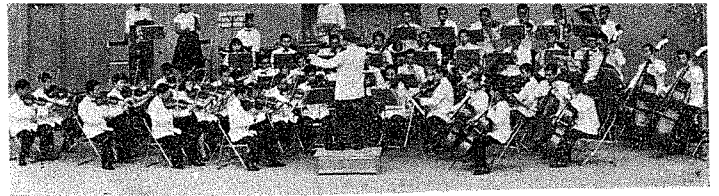
「流浪の民」  
合唱 本校声楽部とそのOB  
ソロ ソプラノ 川崎英子  
アルト 津田侑子  
テノール 松中一幸  
バス 横田浩和

Bizer ..... "L'ARLESIENNA" SUITE No.2

「アルルの女」第二組曲

Joh. Strauss ..... "WIENER BLUD" waltz

「ウィーン気質」円舞曲



京都市交響楽団

楽団長 高山 義三


常任指揮者 カール・チェリウス

事務長 村田 俊雄

1st Violins	Violoncellos	French-Horns
山田 宗二 郎 東 儀 幸 依 田 卓 也 池 田 眺 修 美 司 疎 七 尾 脇 玲 子 玉 宮 井 美 穂 昭	青 山 幹 雄 内 藤 五 中 岩 井 康 内 田 重 雄 佐 々 木 重 幸 藤 田 卓 三	瀬 川 三 啓 雄 広 野 小 四 郎 山 田 桂 三 鶴 岡 敏
2nd Violins	Double-Basses	Trumpets
中 村 義 周 西 山 正 史 山 崎 史 郎 中 林 村 正 男 荒 川 幸 美 雄	内 田 重 雄 佐 々 木 重 幸 藤 田 卓 三	齊 藤 彦 次 八 木 夫 夫 切 島 敏
Violas	Flutes	Trombones
岡 田 夫 雄 田 各 幸 吉 山 田 隆 実 子	川 瀬 登 公 昇 山 口 公 昇	広 田 由 松 緒 方 精 輝 大 和 久 俊 寿
	Oboes	Tubas
	福 田 三 男 川 瀬 三 宜 広	銀 治 谷 茂
	Clarinetts	Percussions
	村 瀬 二 郎 川 端 春 子	百 田 欣 和 小 堀 言 次 八 田 治 郎 多 和 千 賀 子
	Bassoons	Piano
	佐 々 木 賢 一 松 岡 哲 司	岩 谷 光 子

演奏長 山田 宗二 郎  
次 席 東 儀 幸  
監督 内 藤 夏 五

専務所および練習所 岡崎 公会堂 内 電 ④ 4 4 9  
7 6 5



藍綬褒賞受賞に輝く 優美な音色

---

河合ピアノ・オルガン

---

三木楽器店 神戸支店

---

神戸市生田区元町三 電話三宮⑥0670

ヘンデル (1685~1759) ……………管絃楽のため組曲 「忠実なる羊飼」

17世紀から18世紀にかけては、ヨーロッパの社会と共に音楽も大きく移り変わった時代です。同じ年にドイツに生れたバッハとヘンデルは、性格や生活、それに音楽そのものもかなりの対照をみせていますが、近世音楽の基礎を築いたという点において、二人とも忘れられない作曲家です。バッハが器楽曲や声楽曲を中心として、宗教的な世界に新しい人間感情を吹き込んでいたのに対して、ヘンデルは劇場音楽を中心に貴族社会の社交を通じて、新しい音楽を生みつけました。ジョージ1世の舟遊びのために書いた「水上の音楽」や「王宮の花火の音楽」は大変有名です。この管絃楽のための組曲「忠実なる羊飼」は我が国ではあまりに知られておらず、年代や経緯なども詳しく知りませんが、全体は七つの部分から成り、当時の組曲の様式にならつたもので、性格の異つた舞曲が集められています。

今日はサー・トーマス・ビーチャムの編曲になるものから、その第3曲(ガヴォット)と第5曲(メヌエット)を省いて演奏されます。

1. 導入部とフーガ
2. アダージオ……絃楽伴奏によるフルートの独奏
4. プレ……フランスの西北部の農民から出た二拍子の舞曲
6. パストラール
7. フィナーレ

シューベルト (1797~1828) ……………交響曲 第3番

1827年の3月26日、ベートヴェンは偉大な足跡を残して世を去り、彼の葬儀には当時ウィーンにいた何人かの音楽家が行きました。フランス・シューベルトも墓場まで棺をかついだ人の一人です。シューベルトといえは、「ばいた樹」や「野ばら」などの歌曲を思い起こすように、彼は本質的に歌曲の作曲家であり、個人的な感情の起伏を大きく音楽に盛り込み、音楽に物語り風な、そしてまた幻想的な気分を今まになつたほど大きく取り入れたなどという点において、ロマン主義の先頭に立つ作曲家といわれています。シューベルトはベートヴェンなどは違つて、大きな構成というよりも、自分自身の抒情や情緒を極めて小さいかたちの中に画きました。長編小説に対して珠玉のような詩篇があるように——。それはまた19世紀初頭の社会的風潮の反映でもあつたわけです。

彼の八つの交響曲の中で、「未完成」だけが特に愛されていますが、同じ「交響曲」といっても、私たちはベートヴェンに求めたものとは違つた美しさを見出しているのです。即ちそれは全人類の強い意志とか、正しいもののためのたたかいたたたかいたなどを内容にもつ大きな建築的な組立てではなく、もつとひそやかな抒情性ではないでしょうか。

この交響曲第三番は、シューベルトがまだ18才のときの作品で、天才といえども「交響曲」としては未だ習作の域を出ていないもので、ハイドン、モーツァルトが築いたこの形式を学ぶ若い作曲家の姿が、ほほえましく想像されます。

全体は四つの楽章からできています。第一楽章はアダージオ・マエストロの荘重な序奏に始まりますが、間もなくクラリネットが受け持つ軽快な主題によつてソナタ形式の主部に入り、オーボエによる第二主題も愛らしく、型通りの発展、再現を経てこの楽章を終ります。

第二楽章は優美さとユーモアに富んだアレグレット。第一ヴァイオリンの主題が印象的です。第三楽章はメヌエット・ヴィヴァーチェ、これはややスクルツオの性格をもつたメヌエット、レンドラー風の中間部との対照も見事です。

第四楽章はプレスト、ヴィヴァーチェはタランテラのリズムによる六拍子の終曲です。

マスネー (1842~1912) ……………歌劇「フェードル」序曲

フランス・ロマン派歌劇作家としてグノーと共に高く評価されるマスネーはすくなくれた作品残していますが

特に「マノン」「ウエルデル」が知られています。

この「フェードル」は1874年パリで初演されました。フランスの詩人 ジャン・ラシーヌの悲劇「フェードル」のための舞台音楽として書かれたもので、又この悲劇はギリシヤの三大悲劇作家の一人と称せられるエウリピデスの「イポリット」によるものです。

悲劇のあらすじは、アテネ王デーゼの妃フェードルは王と前妃との間の子王子イポリットを恋するが、イポリットは貴族の娘アリシーを愛している。フェードルは嫉妬の念からイポリットを無実の罪に陥れ王を怒らせて彼を国外へ追放する。途中、海神ネプチューンによつてイポリットは殺され無実を知つた王はアリシーを養女とする。フェードルも又自分の罪の深さを知り、毒を仰いで死ぬ。といつたものでこの序曲は悲劇の内容にふさわしく、最初の和音の反覆で悲劇を暗示しクラリネットがフェードルを象徴し転調してテコロが若き美しい王子イポリットを描き、熱情的に、華やかに速度を増して結尾部へ入ります。

シューマン (1810~1856) ……………「流浪の旅」合唱と管絃楽

1840年に愛妻のクララに当て、『昨日私は27枚の詩を書いています。これについては、ただ私は嬉しくて泣いたり笑つたりしているより外はいえませんが。旋律と伴奏とは、今は殆んど私を殺してそうです。私はその中に陥ちこんでしまうでしょう』と書いています。

これは歌曲集「ミルテ」を作曲している時ですが、シューマンはどロマンで感情に溢れ、しかも新鮮な音楽を書いた人はいないでしょう。

「流浪の民」はシブローの一夜の宿泊を描くハイネの詩に作曲したもので、古今を通じ合唱曲としてよく演奏されています。原曲は女声合唱のためのものですが混声合唱としてもよく唱われます。明治40年頃以来から石倉小三郎氏の名訳による「ぶなの森の葉蔭くれに……」で私達に親しまれています。

ビゼー (1838~1875) ……………「アルルの女」第二組曲

有名な歌劇「カルメン」で知られているビゼーは、1872年、フランスの文豪ドデーの戯曲「アルルの女」の劇中音楽として27曲の管絃楽曲を書きました。その中から1曲を(Prelude Menuet, Adagietto Carillon)を選んでビゼー自身が大管絃奏用に編曲したものが第一組曲。後に他の四曲(Pastorale, rntevmezzo, Menu et, Farandole)を選んでビゼーの親友のギローが編曲したのが第二組曲で、一般によく知られているのはこの第二組曲の方です。

(Pastorale) (パストラル) 牧歌アンダンテ、ソステヌート、アツサイ、イ長調4/4……緩やかな豪快な調べが中心をなし、太鼓の刻む舞踏風のリズムの上にフルートとクラリネットがオクターヴで軽快な主旋律を奏でます。

(Intermezzo) (インターメツォ) 間奏曲、アンダンテ・モデラート、マ・コン・モート、変ホ長調4/4……荘厳強烈な前奏の後で、アレグロ、モデラートになり、哀愁をそそる優美な、冥想的な主旋律となります。

この主旋律は後に「神の小羊」(Agnus Dei) というラテン語の典礼歌詞をつけて独唱用として編曲されています。

(Menuet) (メヌエット) メヌエット・アンダンティーノ、クワヴ・アレグレット、変ホ長調4/4……原作の劇中音楽にはこの曲はなく、ビゼーの「ベルトの美しい娘」からの組曲にとり入れたもので、非常に優美なメヌエットでフルートが独奏します。

(Farandole) (ファランドール) フアランドール、アレグロテチオーソ、二短調4/4……原作第三幕で村人達の踊るフアランドール舞曲と、民謡として唱われる「三人の王様に行進」とが交互に表われ、またカノン風に組合された美しい曲です。

シストラウス (子) (1825~1899) ……………「ウイン氣質」円舞曲

ヨハンシストラウス親子は二人とも同姓同名で、私達にはウインナ、ワルツとなじみの深い曲を数多く書いています。

「ウイン氣質」は、子ヨハン・シストラウスの作品で4つのワルツからなつています。彼はウインナ・ワルツの黄金時代を築いた人で、「ワルツの王様」と呼ばれています。喜歌劇「編姫」「シブシー男爵」ワルツ「美しき背きドナウ」「芸術家の生涯」「ウインの森の物語」「酒、女、唄」「皇帝円舞曲」などが世界中の人達から愛され、親しまれています。